

浄土宗西山禅林寺派

潮音寺だより

<http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/>
〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬一丁目10-11

ナモの寺 検索

第324号
平成22年10月

電話 052-671-4831

ファクス 052-671-4856

choonji@aichi.email.ne.jp

悪のなかに

たのしみをもつなかれ

悪つもりなげ

堪えがたき

くるしみとならん



【出典】『法句経』二七番

水彩画：松村憲一

悪しきことに

心して足を

踏み入るなかれ

しかるに

悪しきこと

図らずも

行わば

気づきしとき

咎められしとき

すぐさま

止めるがよい

悪しきことに

楽しみを

見出すなかれ

悪しき行為

悪しき業

つもり積もりて

汝を

重く押し潰さん

石榴（ザクロ）

実りの秋。食欲の秋。さまざまに自然の恵みが美味しくいただけ、秋の到来であります。そんな中、ザクロは、あまり口にする機会が多い果物とはいえませんが、形といい、色といい、味といい、他に類するようなものはなく、特異な存在感を放っております。

だからでしょうか、重要な意味を持つ果実として、世界の神話などにたびたび登場します。西洋においては、ギリシャ神話に、こんな話が伝わっております。

最高神ゼウスと、穀物の女神デメテルの間に、ペルセフォネという美しい娘がいました。そのペルセフォネを見初めた冥府の王ハデス（ゼウスの兄）は、ゼウスに娘との結婚を申し出ます。

しかし、ゼウスは承諾しますが、

デメテルはあくまで拒否し続けました。そこで、冥王ハデスは、むりやりペルセフォネをさらひ、妻にしてしまいます。

デメテルは悲嘆のあまり、穀物の女神としての仕事をしなくなつてしまいましたから大変、作物が実らなくなつてしまつたのです。困つたゼウスは、ペルセフォネを戻すよう、息子のヘルメスを使者として、冥王ハデスの元へ送ります。ハデスも、さすがに最高神ゼウスの頼みですから、聞かないわけにはいきません。しかし、ただ帰すわけにはいかないと、一計を案じ、ペルセフォネに、ザクロの実を食べさせたのです。

つまり、冥府の食べ物を口にした者は、冥府に戻らなければならぬという掟を利用したのです。そつとも知らず四粒（一説では六

粒）のザクロを食べたペルセフォネは、一年の内、四ヶ月の間、冥王ハデスの元で暮らさなければならなくなつたのです。

穀物および大地の生産物の女神デメテルは、娘ペルセフォネが帰ってくるときは喜び、大地を芽吹かせ（春）、生育させ（夏）、そして実らせ（秋）ますが、冥府に戻るときは、悲しんで作物を枯らせ（冬）てしまうのだそうです。

以上、人間くさいギリシャの神々が、四季を創つたエピソードとして、なかなか面白いですね。

一方、東洋においては、残酷で身の毛のよだつ話として伝わっております。その主は、インドの鬼女神で、サンスクリット名をハリデーイー。訶利帝、訶利底と音写し、訶梨帝母ともいいます。

この鬼女の父母も鬼神・鬼女で、

夫も般闍迦（バーンティカ）という鬼神王でありました。この悪因縁のもとに五百人（九子、七子、五子、千人など諸説あり）の子がいたといえます。

鬼子母は、これらの子を養っために、日夜、王舎城内の子を盗んでは食らい、王舎城の人々は恐怖で戦き、そして、子を失った悲しみの泣き声が絶えることはありませんでした。

そのことを憂えた釈尊は、末子の嬪伽羅（プリヤンカラ）を隠してしまわれました。鬼子母は、半狂乱になって探し回りますが見つかりません。ついには、釈尊の下に救いを求めてきた鬼子母に対し、「お前のように多くの子がいるものでも、子を奪われることは悲しかったであろう。まして、一人子を奪われ、食われたとしたら、

その父母の悲しみたるや、計り知れないものがある」と戒め、末子を返しておやりになりました。戻った我が子を抱きしめ、鬼子母は、涙を流してこれまでの過ちを悔い改め、釈尊から戒を授かり、仏弟子となりました。その後、安産・子育ての善神となることを誓い、今日まで、鬼子母神として信仰を集めています。



さて、鬼子母神像の右手に持っているのが問題のザク口で、種が多いことから、子孫繁栄・豊穰をシンボライズしたものと思われます。一方では、釈尊が、鬼子母に

人の肉を食らうの止めさせるために、人肉の味がするザク口を与えたという伝承もあり、柔和な尊顔の善神となった今も、おぞましい過去を背負わされているのかと思うと、気の毒な気がいたします。

鬼子母のふるさとは、西北インド大兜国のあたりで、おそろしく、飢饉の時にこのような婦女が実在したのではないかといわれています。われわれ衆生は、大なり小なり、他人には言えないような罪を犯しているものです。釈尊は、『法句経』の中で「悪のなかに、たのしみをもつなかれ」と諭されています。悪と気づいたとき、悪と指摘を受けたとき、即座に止めるがよろしい。犯罪者で、再犯の者がいかに多いか。鬼子母神様には申し訳ないですが、ザク口は持っているだけで済ましましょう。

◎道具

用具、器ⅳ、家具、あるいは用品……これらはすべて「道具」から派生して生まれたことばといっているだろう。この道具は、実は純粋な仏教用語。元来は、修行僧が仏道修行のためにも持ち歩く用具を指して用いられたことばなのである。

古代インドで修行僧が一人当たり持ち歩くことが許されたのは、「三衣」「六物」「十八物」「百一物」と呼ばれるものだけに限られた。

しかし、個人が私有を許されたのは「三衣一鉢」。つまり、日常生活用僧堂内用、托鉢用の二種類の袈裟と、一つの鉢だけであった。尼僧の場合にはこれに「二衣」が加わる。

では六物とは何か。三衣一鉢に、坐具と、水中の虫などを飲み込まないように水を濾す漉水囊が加わる。

さらに十八物となると、以上の三衣一鉢、坐具、漉水囊に、楊子、手洗いのために大豆や小豆で作った洗剤水瓶、錫杖、香炉、手巾、剃髪や爪切りのための小刀、火打ち石、鼻毛抜き、繩床(携行用椅子)、經典律の要項を書いた戒本、仏像、菩薩像が加わる。考えてみればけっこうな大荷物だ。

では百一物とは何か。これは、今まであげた物やそれ以外の生活用具を各人一個ずつ蓄えることが許されているという意味で、百はたくさんもの、といった程度の意味ではない。

それ以上の余分なものは「長物」。邪魔で役に立たないものたどえとして「無用の長物」ということばがあるが、語源はここに求めることができる。物が氾濫する現代に生きる

我々は、改めて釈迦の時代の道具とすることばをかみしめる必要があるそうだと。

(『仏教のことば』早わかり事典)

雑記

▼石榴(ザクロ)

なぜ「ザクロ」というか？

漢名の「石榴」を呉音で読むと「ジャク・ル」となり、それが変化したものというのが有力とか。

▼チャッピー

本誌にも何度か登場してもらった、シーズー犬のチャッピー君が、横たわったまま、何も口にしなくなってしまう。14年と4ヶ月、子供の成長と共にあり、多くの思い出を作ってくれたことに、今はただ、ありがとう……。

◆散歩した帰る小徑に葛の花 沐魚

